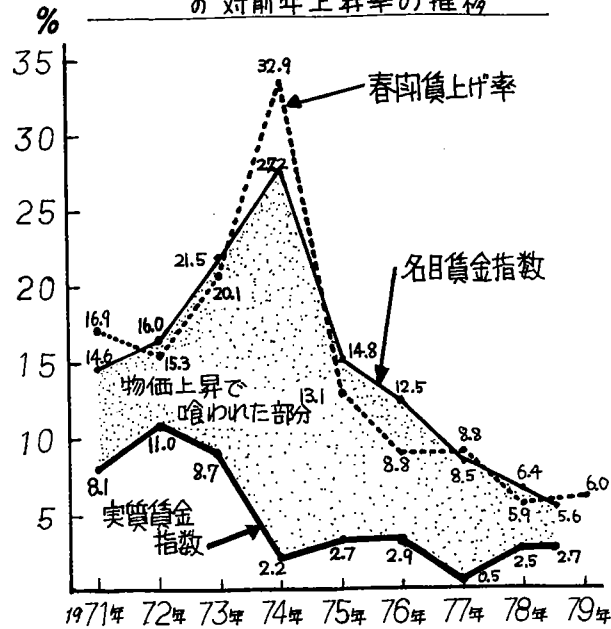


「物価」「公共料金」の値上げ許すな！

(表一)

春闘賃上げ率と賃金(名目・実質)
の対前年上昇率の推移



一九七四年の春闘は、「第一次石油ショック・物価高騰」の情勢の中で三二・九%の賃上げを勝ちとった。(それすらも、その年の秋には、ほぼ「物価で帳消し」となった!)。(表一)を見てほしい。われわれが必死の想いで勝ちとった、ささやかな賃上げ分ですえ、物価上昇に喰われて、実質的にはほとんど切り下げられ、ここ数年「実質賃金指数(＝名目賃金指数÷消費者物価指数)」の上昇は、わずかに二%台を低迷しているに過ぎない。しかも、政府統計による「物価上昇率〇〇%」なる数字は、実際の家計をあずかる者の生活実感からかけ離れて低く発表されている。この数年、全く上昇していないばかりか、下落さえしているというが実態である。

ささやかな「賃上げ」分さえ、「物価」で帳消し……

4

春闘討論資料その三

歯止めがはずれた物価急上昇!!

「八%うち破れ!」「大幅賃上げを!」……
来月一日からの電気、ガス料金大巾値上げを控え、三月二十三日、春闘共闘会議主催の中央集会在東京・代々木公園で開催された。
「第二次石油ショック」と称される昨今の物価急騰、加えて低賃金・合理化等にはさみうちされて、我慢の限界にきている労働者は、全国三〇都道府県で集会をもち、中央集会には予想を超える十万人の結集をもって、その怒りを叩きつけた。
一九七四年の「第一次石油ショック・物価高騰」以降六年ぶりに持たれた、この日の「物価メーデー」

10万人の怒りが噴出!
3/23 六年ぶりに「物価メーデー」

デー」で、挨拶に立った植枝総評議長は「政府の公約した消費者物価上昇率六・四%以内、なる見通しはすでに大きく崩れている。その上公共料金の大巾値上げにより、物価は天井知らずになるうとしている」と「非常事態」を宣言した。「こんなじゃ喰ってゆけない!」「大巾賃上げを!」なんて八%に抑えるのか!の声は会場に満ち、参加者は怒りも新たに集会デモを聞いた。
動労千葉は各支部から六六名の参加者をもって参加し、新宿コースのデモの先頭を担った千葉県春闘共闘会議隊列五千名の仲間と共に最後まで闘いぬいた。

80.3.26
No. 386

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八〇九(公衆電話)二七二〇七

(表二) (対前年同月比)

	卸売物価	消費者物価
1978年8月	-3.6	4.2
9	-3.7	3.7
10	-4.0	3.3
11	-3.2	3.4
12	-2.3	3.5
1979年1月	-1.6	3.2
2	-0.9	2.4
3	0.1	2.6
4	2.2	3.1
5	3.5	3.8
6	5.2	4.2
7	8.3	3.1
8	10.9	3.1
9	12.6	3.1
10	14.5	4.2

卸売物価と消費者物価の関連

「物価の上昇は六・四%におさえる」などという政府の見通しなど、ほとんどの人間が信じていない。大方が「一〇%台から二〇%」近い上昇、との実感を持っている。(朝日新聞の調査による)

(表一)は、政府統計による最近の「卸売物価ならびに消費者物価の推移」を示す表であるが、最近の「急騰」ぶりをよく示している。

①、まず「卸売物価」についてみると、一昨年前半は円高の効果が残っていた事で相殺されて、安定傾向にあったものが、昨年半ばを境に「対前年同月比」で、五月三・五%、六月五・二%、七月八・三%と急上昇に転じ、さらに八月以降は一〇%台をどんどん突破し、急上昇の角度は一方向に衰えないで本年に至っている。

(表二)のグラフを見れば、その上昇ピッチたるやまさ

(つづく)

(表三)

